

いのちまも ぼうさい

みらい

つた

けつ い

命を守る防災

未来に伝える決意



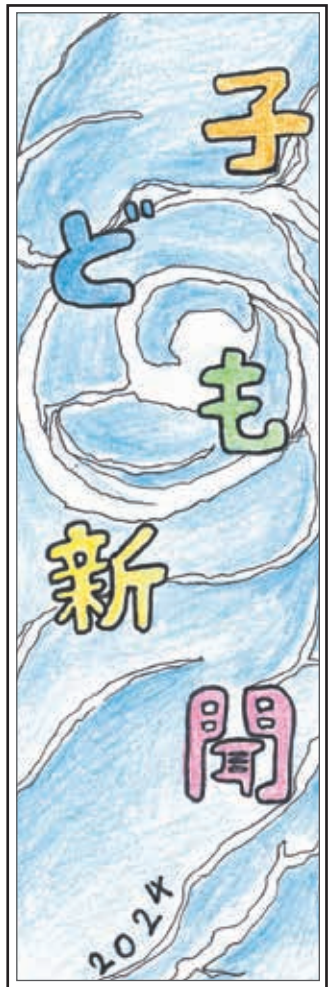
福良港津波防災ステーション屋上から福良港湾口防波堤を望む子ども記者達

今年元日に発生した能登半島地震では、石川県を中心に北陸地方で多くの人的被害者や住宅被害を出し、今も懸命な復旧活動が続いています。いつ起きるかわからない地震にどう備え、津波などの災害から命を守るために何が必要か。自治体や民間企業、住民自身による防災の取り組みに、新しい発想や生活に身近なアイデアを探り入れる動きが広がっています。愛知県や岐阜県に住む子ども記者9人が現場取材しました。

子ども記者たちはまず、2011年の東日本大震災の被災地とオンラインでつなぎ、取材しました。宮城県石巻市に本社がある石巻毎日新聞社は当時、社員が手書きの壁新聞を作った情報を伝え、地域住民の安全に努めました。

隣の女川町も津波で壊滅的な被害が出ました。観光協会に取材し、津波被害の教訓を生かして始まった「女川復興男」と呼ばれる催しを知りました。取材で最初に足を運んだのは、大阪府中央区の高層ビルに囲まれた「角。パソコン周辺機器メーカーのエレコム大阪本社で、日用品以外に災害時も役立つ「フェーズフリー商品」の開発や、会社の被災地支援の取り組みを聞きました。

被災者のつらい体験にも触れました。1995年、国内で史上初めて「震度7」を記録した阪神・淡路大震災。震災の教訓を伝える兵庫県神戸市の「人と防災未来センター」を訪れ、語り部から被災体験を聞きました。当時の映像や品々を集めた施設内も見学し、防災への意識や考えを深めました。



広告特集

子ども新聞プロジェクト2024

子どもたちが自身が取材して記事にまとめます。「気づき・考え・実行する」大切さを、同じ世代の子どもにも伝え、より多くの子どもたちが新聞を読んで、行動する力を育ててほしいと願っています。

企画：日本赤十字社愛知県支部・岐阜県支部
制作：朝日新聞社メディア事業本部
後援：愛知県教育委員会
名古屋教育委員会
愛知県小中学校長会
名古屋市立小中学校長会

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
朝日新聞

子ども記者レポート

- 宮城県石巻市・牡鹿郡女川町 石巻毎日新聞社・女川町観光協会
- 大阪府大阪市 エレコム株式会社
- 兵庫県神戸市 人と防災未来センター
- 兵庫県南あわじ市 淡路手延素麺協同組合・(有)金山製麺
- 兵庫県南あわじ市 市役所
- 兵庫県南あわじ市 福良町づくり推進協議会

島内の自治体の南あわじ市では、2020年に災害時のトイレ問題を解決する「トイレカー」を導入。特産品のタマネギを入れるかごを使った「コンテナベッド」も考案し、それぞれの背景や狙いについて取材しました。最後に島内の福良町づくり推進協議会を訪れ、「日本一の防災街づくり」を目指す住民の思いに耳を傾けました。

～過去の震災から学んだ教訓を防災・復興につなげよう～

わたしたちの言葉で、未来に伝える

青少年赤十字では、全国の幼稚園、保育園、小中高等学校など学校教育の現場で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として、子どもたちが自分で「気づき・考え・実行する」力を育てています。学校教育を通じて震災の経験を次世代に伝えていくという理念に共感した企業の皆さまによって、子ども新聞プロジェクトの財源の一部が支えられています。

生きる力を育む青少年赤十字

青少年赤十字では、「気づき・考え・実行する」を通して、自ら学び考える力を育てます。赤十字には国内外にネットワークがあり、様々な人とつながることができます。青少年赤十字の一員として、やさしさや思いやりの気持ちを育む活動に、一緒に取り組みませんか。

モンゴル赤十字社のユースメンバーと交流している様子（令和6年度青少年赤十字海外派遣）▶



東日本大震災とはどのようなもの
だったか調べてみよう。

子ども記者リポート① 石巻日日新聞社・女川町観光協会

2011年3月11日の東日本大震災の翌日、被災地の避難所などに手書きの壁新聞が張り出された。
ペンで書かれた新聞に多くの被災者が足を止め、「今」を知ることができた。



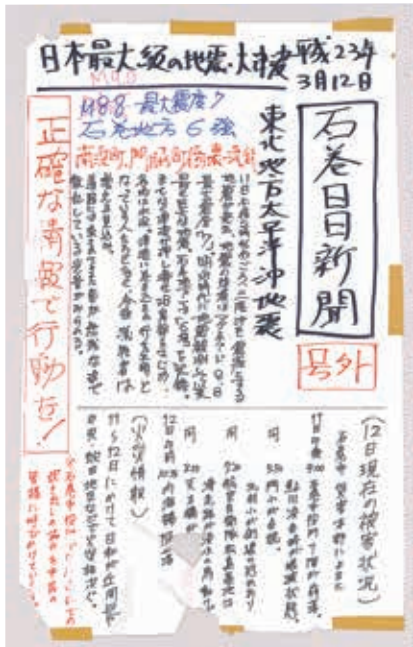
石巻日日新聞社 社長
近江 弘一さん

宮城県石巻市に本社がある石巻日日新聞社の社長の近江弘一さん（66）に、東日本大震災当時の活動や地域活性化への思いを聞いた。

近江さんは石巻市出身だ。東京の大学を卒業して会社員として働いた後、自ら会社を立ち上げたこともあったという。そして2006年、石巻日日新聞社に入社した。「地域を元気にしたい」という思いがあったという。

2011年3月11日、東日本大震災で被災。当時は電気が止まり、新聞を作るためのパソコンや印刷機が動かさなかった。そのような状況の中で、近江さんは手書きの壁新聞を作り始めた。

なぜ手書きで新聞を作ろうと思ったのか。それは、避難



避難所の方に正確な情報を伝えた手書き壁新聞

所の人に危険な場所や災害の情報も少しでも知ってもらいたかったからだ。私は、自分も大変な時なのに、他の人のために新聞を作ろうと動いたことがすごいと思った。

手書きの壁新聞は、一日目は3〜4時間かけて6枚を作ったそう。だ。「ペンと紙さえあれば、みんなに伝えられる」。そんな強い思いで書き続けた。また、いろいろな情報が流れる中で、社員などまがいは書けない。だから、社長である自分が責任を取ろうと自ら書くことを決めたそうだ。

石巻日日新聞社のスローガンは、「愛する地域を未来の笑顔につなげます」。今も地に

元の復興と地域活性を目指すている。

私は、新聞社としてスローガンを立て、みんなが一丸となって取りくんでいこうとする姿に感動した。

近江さんは、地元のアマチュアサッカーチームの運営もしている。サッカーでも地域を盛り上げようと、選手とともに祭りの手伝いなどをしているという。

近江さんは、地域の人のために自分に何ができるかを常に考えて行動していた。私も地域や人のために何ができるか。取材を通じて近江さんに教えてもらったことを、これからも大切にしていきたいと思った。

被災直後に手書き壁新聞 避難所に情報届け続けた



梅村 理菜記者

「もし高台へ避難していれば」——。そんな反省と教訓から生まれた被災地の防災行事がある。
太平洋沿岸にある宮城県女川町で、2013年から始まった「女川復幸男」だ。



女川町観光協会
事務局長
遠藤 琢磨さん

東日本大震災からの復興について、宮城県女川町観光協会事務局長の遠藤琢磨さん（56）に話を聞いた。

女川町では、毎年3月のお祭りで「津波伝承 女川復幸男」というイベントがある。参加者は「逃げろ」という合図で走り出し、高台を目標に到着の早さを競う。そして、最初に着いた人は「一番復幸男」と呼ばれる。ベビーカーを押す親子連れからお年寄りまで、毎年100人以上の参加者がいるそうだ。

このイベントが始まったきっかけは、2011年に発生した東日本大震災だった。女川町は太平洋沿岸にあり、地震による津波被害が大きかった。津波は、地震発生から35分ほどで町に

到達し、高さは10メートル以上に及んだそうだ。町の中心部は全て津波で流されてしまったという。

遠藤さんによると、当時、車内に避難してラジオを聞いていた人や、「津波は来ない」と言われていた場所に行った人も流されてしまった。避難者への備蓄品などを準備していた公民館は流され、4階建てのビルも簡単に倒れてしまったそうだ。最終的に町の建物の7割以上が壊れ、800人以上が亡くなったという。

女川町ではこれを教訓に、少しでも津波による被害を抑えたいと今から11年前にこのイベントを始めた。多くの町の人に参加してもらえば、いざ津波が



一番復幸男を目指して全力で坂を駆け上がる参加者

とにかく早く高台へ避難 早さ競う女川の「復幸男」



岡崎 紗瑛記者

来てもちゃんと高いところに逃げられるのだ。遠藤さんは「これから100年、1000年と続けていきたい」と言っていた。

また、遠藤さんは「津波が来たときには、とにかく早く高いところに逃げるのが大切だ」と強調していた。私も遠藤さんの言葉を胸に、いつでも命を守る行動を心がけていきたい。

毎朝、好奇心 ふくらむ

朝日小学生新聞

毎日発行 8ページ 月ぎめ2,100円(税込み)

毎日読んで
キミのレベルアップ!

1 まいにち届く ※休刊日をのぞく
まいにち活字にふれる習慣が大切。
成績アップにもつながるよ!

2 ニュースに強い
気になるニュースもすぐ読める!
難しい言葉の解説もおまかせ。

3 ふりがな付き
漢字にはふりがな付き。
だから漢字博士になれちゃうよ。

4 楽しいコーナーがいっぱい
学習まんがやみんなからののお便りも掲載!
楽しいからどんどん読めちゃう。

5 親子で読もう!
お父さん、お母さんといっしょに
読めば、会話もはずむよ!



楽しく学べる
コーナーが盛り
だくさん!

●おしえて
さかなクン(土曜日)



©2024 ANAN And Tm

●桃太郎電鉄と47都道府県の旅(日曜日)
人気ゲーム「桃太郎電鉄」シリーズ(コナミデジタルエンタテインメント)とのコラボです。愛知県から「あいうえお」順に毎週ひとつずつ都道府県を回り、各地の名所や名物、地理的な特徴をキャラクターたちといっしょに学ぶことができます。4コマまんがもお楽しみに!

まんがコーナーも充実!

●武者ムシャ戦国野菜
●ドンマイ!
ずっこけハナコ先生
●れっつ!
ゴーガイくん



「武者ムシャ戦国野菜」
イケダケイ・作



「れっつ! ゴーガイくん」
菊池晃弘・作

「ドンマイ!
ずっこけハナコ先生」
かとうとおる・作

朝日小学生新聞の見本紙はこちらからご覧になれます。



いま
今なら
じっしちゅう
キャンペーン実施中!

朝日小学生新聞のお申し込みはこちらから

www.asagaku.com/re/au24_08.html

※朝日小学生新聞のみでもお届けできます。



普段はモノやサービスを作ったり売ったりしている会社も、災害時には被災地支援に入る。今年1月の能登半島地震で、エレコムはトラックに支援品を積んで向かった。



エレコム株式会社
本社総務課 課長
木幡 優さん

キーボードやイヤホンなどコンピュータ周辺機器を製造し、販売しているエレコムの本社総務課長の木幡優さん（52）に被災地支援について話を聞いた。

エレコムは1日に約14万個の製品を売っており、優れたデザインに与えられる「グッドデザイン賞」を20年連続で受賞している。製品の使いやすさ以外にデザインにも力を入れているという。

エレコムが初めて被災地支援に取り組んだのは、2020年の熊本豪雨だった。「会社として被災地の住民に何かできることがないか」と社内で声が上がったという。そこで、豪雨で大きな被害を受けた地域にモバイルバッテリーを送った。

今年1月に発生した能登半島地震でも約2千台のモバイルバッテリーを送った。しかし、道が崩れていたりトラックの運転手がなかなか見つからなかったりして、1月13日ようやく無事とどけることができたという。被災地にモバイルバッテリーを送れて、木幡さんはとてもうれしかったそうだ。

エレコムでは、会社の利益の一部を社会貢献のために使うことを決めている。被災地支援以外には日本最大級の棚田である「丸山千枚田」の保全や、地域住民と協力して山の植林活動などを行っている。

地震は突然起きる。僕もその時はどこに逃げて、どこで



三重県熊野市にある棚田の丸山千枚田



能登半島地震の被災地へ送られたモバイルバッテリー

能登にモバイル電源2000台 被災地支援の気持ち託し



金 辰子健記者

家族と集合するの、どのような物を普段から準備しておくべきかをもう一度確認しておきたい。そして、エレコムなどさまざまな会社で、被災地支援の活動に取り組んでいることをもっと学びたいと思った。

エレコムが製造する商品には、普段使い以外に災害など非常時でも使える「フェーズフリー商品」がある。そのアイデアはどんな風に生まれるのか。そして、担当者の思いとは――。



エレコム株式会社
コンダクションデバイス課
スーパーバイザー
田邊 明寛さん

1986年に設立した大阪府のエレコムは、フェーズフリー商品（日常でも非常時でも役立つもの）を作っている。2011年にエレコムに入社し、デザインなどを担当している田邊明寛さん（36）に話を聞いた。

エレコムでは防災グッズは約10種類あるが、フェーズフリー商品はこの中で5〜6種類あるそうだ。例えば、緊急時に周囲に危険を知らせる笛と一体になったライトや、普段はまくらもどきに置くライトとして使えるモバイルバッテリーなどだ。笛と一体になったライトは、カバンの中にコンパクトに入る。普段使いのものなので、防災グッズの点検をこまめにしなくても大丈夫。

でも、いざ被災地で使ってもらおうとしても、現地の事情で難しいこともあるそうだ。今年1月1日に発生した能登半島地震で、エレコムでは被災地支援のためにモバイルバッテリーを提供した。だが、食品などに比べて優先順位が低かったため、被災者の手元に届



フェーズフリー商品の笛ライトを吹く子ども記者



ペンライトと笛が一体となった「フェーズフリー商品」

メリットもある。田邊さんは、このような商品を作るヒントとして「日常で不便だなと思ったものにある」と話していた。

ではなぜ、フェーズフリー商品を作ろうと思ったのか。それは「一人の役に立つものを作りたいという気持ちから」と田邊さんは話していた。エレコムではデザインにも力を入れていて、彼が手がけた商品は「フェーズフリーアワード2023」に入選しているそうだ。

しかし、いざ被災地で使ってもらおうとしても、現地の事情で難しいこともある。今年1月1日に発生した能登半島地震で、エレコムでは被災地支援のためにモバイルバッテリーを提供した。だが、食品などに比べて優先順位が低かったため、被災者の手元に届

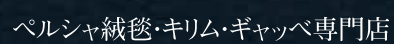
小さくて便利「笛ライト」 支援の心 デザインで表現



久谷 心菜記者

くのが遅れたそうだ。この取材を通じて、田邊さんのように普段から何が不便かを考えてくれている人がいるからこそ、災害が起こった時に少しでも安心した生活が送れるのだと思った。私も自宅の防災グッズを改めて確認し、災害に備えておきたい。

A collection of various Persian and Islamic carpets and rugs displayed on a dark wall. The items include a large central rug with a blue and gold medallion, a large yellow rug with a repeating floral pattern, a red rug with a central medallion, a blue rug with a central medallion, a green and blue rug with a central medallion, a red and white rug with a central medallion, a blue and white rug with a central medallion, a red and white rug with a central medallion, a blue and white rug with a central medallion, and a red and white rug with a central medallion.



Nagoya since 1999



子ども記者リポート ③ 人と防災未来センター

防災では過去の災害について正しく知り、未来に向けた備えが大切だ。地震などの災害はいつ起きるかわからないからだ。1995年の阪神・淡路大震災は早朝に発生した。



人と防災未来センター
部 記者
秦 詩子さん

1995年に起きた阪神・淡路大震災の被災体験について、2002年に兵庫県神戸市に設立された「人と防災未来センター」で、語り部活動を行っている秦詩子さん（78）から話を聞いた。

地震発生当時、秦さんは神戸市東灘区の自宅にいた。早朝、起きようとしたとき「ミキサーにかかったような」激しい揺れを感じた。家具などがその場でバタバタと倒れ、秦さんも下じきになりそうになった。だが、幸いにもすき間があり助かったという。秦さんによると、この地震で亡くなった方々の死因は8割が圧死だったそう。

目の前の光景にぼうぜんとした。高速道路は倒れ、周りの家は全壊くずれていたから。その後、秦さんは友達と協力して、くずれた家の中からお米と、破れた水道管から水をそれぞれ持ち寄り、たき出しをした。まもなく現場に到着した自衛隊や周りの人達は、がれきにうまっている人の救助を始めた。だが、まだ余震が続く中、助けを呼べる人が優先されたため、なかなか救出されなかった人もいたという。

当時、神戸市を含む阪神地域では、大きな地震が全く起きていなかった。だから震災の時、ほとんどの人は災害や防災についてよく知らなかったという。秦さん達がたき出しをしていた公園は、市から避難所に指定されることになった。しかし、避難所に指定さ

揺れ、まるでミキサーの中
不断の防災学習 伝え続け



高田 耀記者

れると何があり、どんなことができるのかも分からなかったそう。秦さんは「ちゃんと各々が災害について勉強していれば、もっと命が助かったのではないかと語った。私はそれを

聞き、普段の生活でもあらかじめ災害の知識を持ち、対策をすることが大切だと思った。

また秦さんは、水が止まってトイレに困ってしまったと、水の大切さも語っていた。私も秦さんの教訓を生かし、災害に備えて水を含めて何を準備し、どんな行動をすべきか、どこへ避難すればいいかなど考えておきたい。



ジオラマ模型で再現された震災直後の街並みを歩く子ども記者達



地元（地域）の災害状況を調べてみよう。

例) 避難所の確認、災害時に困ることなどを話し合ってみよう

広告

せい かつ しゅう かん びょう

びょう き

生活習慣病ってどんな病気？



せい かつしゅう かん びょう
生活習慣病って
よく聞くけど
どんな病気？

せい かつしゅう かん びょう まい にち せい かつ げん いん びょう き
生活習慣病とは、毎日の生活のしかたが原因でかかる病気のことです。
たとえば、次のようなことが原因でおこります。

食事

ひつ よう い しょう た す もの た かたよ しょう じ
必要以上に食べすぎたり、好きな物ばかり食べて偏った食事をしていると
体に悪い影響があります。

運動不足

うん どう ぶ そく す からだ うご きん にく へ
ゲームなどのやり過ぎで、体をあまり動かさないと、筋肉が減ったり、
体が弱くなったりします。

ストレス

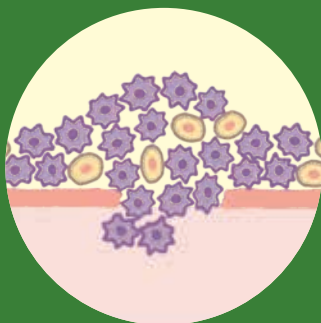
ストレスというのは、いやなことや寝不足が続いて心が疲れることです。
心が疲れると、体にも悪い影響を与えます。



せい かつしゅう かん びょう つぎ びょう き し
生活習慣病には次のような病気があることを知っていますか？

「がん」

からだ なか さい
体の中に、コントロールできない細
胞が、増えてかたまりを作ったり、
からだじゅう ち びょう き
体中に散らばってしまう病気です。



「血管の病気」

あたま しんそう けっ かん
頭や心臓などの血管が、かたくなっ
たり、細くなったり、つまったり、また、
こぶができて破れたりする病気です。



これらの病気を防ぐためには、バランスの良い食事を取り、運動をして汗を流す事が大切です。
また、日々の生活のストレスをためないようにすることも大切です。



生活習慣は、子どものときに身につきます

生活習慣病にならないためには、子どものときから
良い生活習慣を身につけましょう。
しっかり食べ、運動し、勉強しましょう。
そして、調子が悪いときには早めにお医者さんにかかりましょう。



月々

500円

からの安心
病気・ケガ・交通事故による
入院 手術 死亡
を保障



ワン
コイン
からの安心

●お問い合わせ先

愛知県共済生活協同組合

[フリーダイヤル]

0120-08-5555

〒460-0025 名古屋市中区古渡町11番33号

ライフ共済

動画でわかる健康・医療
に関する情報はこちら



A1663 2024年8月作成

子ども記者レポート④ 淡路手延素麺協同組合・(有)金山製麺

身近なものを防災に生かした好例として、兵庫県南あわじ市の特産品のそうめんがある。近年では非常食として地域に根付いているという。実際に食べ、その理由を探った。



淡路手延素麺協同組合
理事長
金山 守良さん

兵庫県南あわじ市は、淡路島の南に位置する市で、人口4万4千人が暮らしている。特産品のそうめんも防災で活躍しているそう。淡路手延素麺協同組合の理事長の金山守良さん(51)に話を聞いた。

金山さんによると、防災で活躍できる理由は五つある。一つは賞味期限が長いこと。そうめんの賞味期限は3年で、とても長い。

二つ目は、水が節約できること。災害時では、水がすぐ大切になるので、節約して使わないといけない。そうめんは、ゆで汁として5〜6回は連続で使えて、水の使用

量が減る。最悪、ゆでなくても食べることができ、少し塩くらい。

三つ目は、味もサッパリしていて食べやすい。被災して食欲がなくなっている人でも、栄養をかんたんにとれる。

四つ目は、時間短縮になる。うどんなどに比べ、ゆで時間が短くてすむため、早く作ることができる。これはガスや電気の節約にもなる。

最後の五つ目は、何よりとてもおいしい。非常食といえ、あまりおいしくないイメージがある。だが、そうめんなら、普段と変わらない味を楽しめる。

もともとそ

長期保存・節水・時短・美味
特産そうめんこそ非常食



竹内 晴哉記者



「いとでし」がそうめんを作る様子



木箱で積み上げて保管ができる淡路島手延べそうめん

うめんは、淡路島で古くからの特産品としてあった。「いとでし」と呼ばれる職人によって、忙しい時期は朝2時から夕方4時〜5時までかけて作られているそう。

そうめんを非常食として使うことは、非常時でも役立つ「フェーズフリー商品」と似ていると

思った。地震が起きた時でもそうめんを食べることができ、節約にもつながる。ぼくの町でも、そうめんを非常食としておい



地元(地域)の名産・特徴はなんだろう?

例) 非常時に役立つことはあるかな?

暮らしを支え、未来に向けて活躍する

ファインセラミックス

地球にも人にもやさしく、無限の可能性を秘めていることから
“夢見る素材”と呼ばれているファインセラミックス。
その世界をのぞいてみましょう。

ぼくたちの
未来にどう
関わるの？

Q
ファイン
セラミックス
とは？

A

セラミックスとは、ねんど等の自然材料を焼き固めた陶磁器などのことです。それに対し、精製または化学的に合成した材料で、精密にコントロールして作られるのがファインセラミックスです。粒子が同じ形状で、マイクロメートル/ミクロン(千分の1ミリ)～サブミクロン(1万分の1ミリ)単位の細かさのため、複雑な形も作りやすいのが特徴です。「熱に強い」などのセラミックスの性質に加え、「硬い」「軽い」など、種類ごとの特性を持ちます。身近なものにも活用されており、例えば、スマートフォンやタブレット、パソコン、ゲーム機や家電、腕時計、文房具、車など。多くの電子機器に必要な「半導体」を作る装置にも欠かせません。また、人工歯や人工骨といった医療分野でも使われています。

軽

耐熱

硬

車の環境負荷を低減

自動車の環境負荷を減らすことにも貢献しています。一例が、排ガスに含まれる、大気を汚す原因になる粒子状物質(PM)を取り除くフィルター。高温かつ爆風になる排ガスの通り道に設置するため、高い耐熱性や強度も必要ですが、それにも対応できるのがファインセラミックスです。

エネルギーや宇宙にも

太陽光発電や風力発電、自然エネルギーの安定供給にも役立つ大容量電力貯蔵システム「NAS電池」、水素と酸素から電気を作る「燃料電池」など、環境・エネルギー分野でも活躍。さらに、小惑星探査機「はやぶさ」などの宇宙開発、深海での地震観測といった研究にも活用されています。

モノづくりを進化させる

モノづくりの現場でも役立っています。そのひとつが、微細な穴を持つファインセラミックスに液体を通し、微細な泡を作る「ファインバブル発生器」。熱も力も加えないことから素材にやさしく、部品洗浄や材料加工から薬品などの製造開発まで、様々なモノづくりを進化させています。

※直径が100マイクロメートル(10分の1ミリ)より小さな泡のこと。



さらなる可能性に挑む研究拠点 「ファインセラミックスセンター」

くらしや産業に浸透し、環境・エネルギーをはじめ、現代社会の問題解決にも期待されているファインセラミックス。その分野の研究・評価・試験を行う「一般財団法人ファインセラミックスセンター(JFCC)」は、研究開発力と評価・試験技術をみがくことで、ものづくりにより役立ち、社会に貢献することをめざしています。

一般財団法人 ファインセラミックスセンター

〒456-8587 名古屋市中区大野二丁目4番1号

◆TEL/052-871-3500(代)

◆FAX/052-871-3599

◆E-mail/techsup@jfcc.or.jp

◆URL/https://www.jfcc.or.jp

Surprising Ceramics.

おどろきのセラミック技術で、
未来を支えていく。



日本ガイシ

ノリタケは、全部、 あなたとつながっている。

120th
Anniversary

こんにちは、ノリタケです。私たちは、未来に向けて、「環境」「エレクトロニクス」「ウェルビーイング」の3つの領域に力を集中することになりました。マテリアル×プロセスの独自技術で、「地球を元気に」「社会を便利に」「人と社会を幸福に」新しいノリタケにご期待ください。



Noritake

地球を元気に。社会を便利に。人と社会を幸福に。

ノリタケ株式会社 <https://www.noritake.co.jp>

特殊な発想で 未来を輝かせる。

日本特殊陶業は、Niterra日本特殊陶業に。

Niterra
日本特殊陶業

子ども記者リポート⑤ 南あわじ市

兵庫県南あわじ市では、2020年に自走式の「トイレカー」を導入した。今年1月の能登半島地震の被災地にも派遣され、被災者の衛生環境や健康を守るために活躍した。



南あわじ市役所
危機管理部 危機管理課
沖 渃紀さん

兵庫県南あわじ市には、車とトイレが一体となった「トイレカー」があり、災害時に活躍している。市役所の危機管理課の沖渃紀さん（29）に目的や活用方法などをうかがった。

災害時のトイレ問題は深刻だ。上下水道が壊滅し、ほとんどの避難所では、仮設トイレや簡易トイレを使用している。だが沖さんによると、衛生面が心配で、食事をとらずトイレを我慢して病気になる人もいるという。私は、清潔なトイレは、生活の中で欠かせないものだと思えて分かった。

南あわじ市では、2020年にトイレカーを導入した。男女別で快適な水洗トイレがついている。便座を温かくする機能もあるという。私は、高齢の方や車いすの人など、どんな人でも

避難所に必須「トイレカー」 清潔で水洗、心まで温かく



平野 琴葉記者

安心して使うことができて良いと思った。

今年1月の能登半島地震では、石川県珠洲市に派遣された。南あわじ市のトイレカーが派遣されたのはこれが初めてだったという。15時間かけて珠洲市に向かったそうだが、途中で道が崩れている場所もあり、沖さんは「本当になどりつけるか不安だった」と話していた。

トイレの貸し出しは、最初は1か月ほどの予定だったが、実際に1月8日から約5カ月間に及んだという。川の水をくみ上げ、汚物はバキュームカーで市外へ運び出した。一日で約千人が利用し、「なみだがでるほどうれしい」という利用者の声もあったという。

また、被災地の住民との交流もあったという。南あわじ市から応援メッセージを送ると、珠洲市からも温かい言葉や寄せ書きが集まった。沖さんたちにとって、大変な苦労があっても支援で



石川県珠洲市に派遣した大便器5基、小便器1基を備えた南あわじ市の水洗トイレカー

きてうれしかったなと思う。

南あわじ市は現在、トイレカーでお互いの地域を支援する「自治体トイレカー災害時相互派遣協定」の締結を進めている。現在締結しているのは、南あわじ市のほか愛媛県宇和島市と長崎県島原市の3市だ。今後とも福島県いわき市など4市が加入を予定しているという。

沖さんは「支援の輪を広げたい」と言っていた。私達の住んでいる街も南海トラフ地震が起きると言われている。トイレによる深刻な状態にならないためにも、私達の街も含め各地で支援の輪が広がると良いと思う。

最大で約9千人にのぼる避難者のベッドをどう確保すべきか——。兵庫県南あわじ市が着目したのは、地元の農協で大量に使われている農作物のかごだった。

特産たまねぎで安眠？ 収穫籠の段ボールベッド



山本 和奏記者

兵庫県南あわじ市では、特産品を活用した防災の取り組みにも力を入れている。危機管理部危機管理課の沖渃紀さん（29）に話を聞いた。

南あわじ市では、南海トラフ巨大地震の避難者が最大で約9千人にのぼると予測されている。だが、ベッドの備蓄数が500台しかない。そこで考案されたのが、淡路島の特産品であるたまねぎの収穫時に使うかご（コンテナ）を活用した「コンテナベッド」だ。

ベッドの作り方は、まずかごを並べ、その上に段ボール、そこに毛布を敷くと完成する。丈夫で、お相撲さんが乗っても壊れない頑丈さがあるという。誰でも簡単に作ることができ、あわじ島農業協同組合（農協）にあるかごだけで、5万5千個ほどを製作することができるといふ。

なぜベッドを作ろうと考えたのか。それは高齢者や身体の不自由な人のためだったという。彼らは段差のない場所での起き上がる事が大変で、「少しでも楽になるように」との考えから考案された。また、冷たい床で寝ると血行不良を引き起こす「エコノミークラス症候群」となり、命の危険もある。

この取材を通じて、災害に備えて日頃から防災グッズの確認や、家族と避難場所について相談をしておくことが大事だと思った。また、段ボールもいざという時に役立つことから、身近なものをどう



農協にあるたまねぎの収穫かごを利用したコンテナベッド

活用できるかも考えてみたと思った。

災害が起きると、被災状況によっては住み慣れた家を離れ、当たり前にあったものが手に入らなくなる。生活が一変してしまう怖さを感じた。非常事態だからこそ、地域の人だけでなく、お互いに協力して助け合うことの必要性もあると思った。

観光と漁業で知られる兵庫県南あわじ市福良地区で、防災の意識を浸透させようと奮闘している住民がいる。その根底にあるのは、かけがえのない命を守りたいという信念だ。



福良町づくり推進協議会
会長
原 孝さん

兵庫県南あわじ市にある福良地区は、昔から観光と漁業の町と言われてきたが、最近では防災にも力を入れる。福良町づくり推進協議会会長の原孝さん（79）は、「日本一の防災の町づくり」を目標に掲げている。原さんにその背景や思いを聞いた。

福良地区では、これまで地震による大きな被害はない。1946年の昭和南海地震が起きた時は、海の水がほとんど引いたにもかかわらず、約2メートルの津波しかこなかったそうだ。原さんはこのことから、「みんな津波は来ないと思うようになってしまった」と言っていた。

しかし、2011年の東日本大震災では、様々な場所で想定外の高さの津波が発生した。被害の大きさを知った原さんも「もしもこの町で大きな地震が起こったら、だれも動けなくなってしまう」と心配するようになったという。地域が一丸となって、津波から逃げるための訓練を始めたそうだ。

原さんによると、町の人たちと避難訓練を始めた当初は、簡単にはいかなかったそうだ。いつでも避難できるように、時には朝4時や夜8時から訓練をした。だが、参加する人たちはあまり多くなかったという。

しかし、何回も訓練をするうちに地域一丸となって、みんなで助け合えるようになったことができたようになったという。

早朝や夜 繰り返し 防災の意識 地域に浸透



本多 陽向子 記者

原さんは、「訓練に参加しない人は、本当に大地震が起きたときに助けない」と言っていた。厳しい言葉の裏に、原さんの「みんな死んでほしくない」という

気持ちと、本気で訓練に取り組もうという思いが伝わってきた。

私はまだ大きな地震の被災体験はない。でも、原さんの話を聞き、被災経験がないからと油断してはいけなかった。そして、周りのみんなと協力して防災活動に取り組み、災害時も助け合って生きていきたいと心から思った。



早朝に行われた福良の住民との避難訓練

www.print-1bunno1.com

幼児・小学生・中学生の家庭学習教材

いちぶんのいち

いちぶんのいちとは1日1枚20分でできる価格をおさえた家計にやさしい家庭学習教材です。シンプルな教材で集中力アップ。答え合わせをしながら親子のコミュニケーションにも役立ちます。入会・退会は月単位で自由にできます。

幼児 月謝 830円 小学生 月謝 980円 中学生 月謝 1,470円 → **初回のみ 480円**
(すべて消費税・送料・コンビニ払込手数料込) (消費税・送料・コンビニ払込手数料込)

■お申し込みは、お電話・FAX・ハガキ、公式サイト専用フォームからお願いします。■初回の教材は、ご注文の確認から2営業日以内で発送いたします。■ゆうメールでのお届けとなりますので、到着まで5日～1週間ほどお待ちください。■入会金は不要です。■代金は払込用紙を同封いたしますので、教材到着から1週間以内に最寄りのコンビニまたは郵便局よりお振込ください。■電子マネーは、PayPay・銀行Pay・J-CoinPay・auPAY・FamiPayがご利用になれます。■払込用紙にはコンビニ支払い(消費税・送料・払込手数料を含む)の金額が印字されております。郵便局をご利用の場合は、払込手数料が別途必要になります。■初回のみで解約の場合は、必ず教材に同封の書類に記載されている期日までに下記電話番号へお知らせください。■教材は毎月20日頃に翌月号を発送しています。休止・解約をされる場合は、教材到着後1週間以内に必ずご連絡ください。■落丁・乱丁等ございましたら、新しいものをお届けしますのでお知らせください。■年払い済みの途中退会の場合、通常月額料金で清算の上、残金をお振込いたします。払込手数料はお客様のご負担となります。※個人情報情報は商品情報のご案内、商品発送など当社の業務のみに使用させていただきます。

楽天ショップでもお求めになれます。



※楽天ショップご利用の場合は初回480円の特典はご利用いただけません。

●お申し込み・お問い合わせはフリーダイヤルかホームページからどうぞ。

0120-141486

FAX.0120-240913 受付時間/平日午前9時～午後7時

株式会社 プリント学習社

〒501-3107 岐阜市加野6-35-23

— 今回取材した子ども記者達 —



かにしりつ
可児市立
今渡北小学校 6年
うめむら りな
梅村 理菜さん



かみはらしりつ
各務原市立
蘇原第二小学校 6年
おかざき さえ
岡崎 紗瑛さん



なごやしりつ
名古屋市長
稲西小学校 6年
きん ちんすけ
金 辰子健さん



とよはししりつ
豊橋市立
吉田方中学校 教諭
きまた あやこ
木俣 綾子先生



とよはししりつ
豊明市立
館小学校 6年
やまもと わかな
山本 和奏さん



おかしりつ
岡崎市立
細川小学校 6年
ひさかき こころ
久谷 心菜さん



とよはししりつ
豊橋市立
松葉小学校 6年
たかだ あり
高田 耀さん

兵庫県南あわじ市の
福良港津波防災ステーションにて

子ども新聞 プロジェクト2024



あくいきりつ
阿久比町立
草木小学校 6年
たけうち はるや
竹内 晴哉さん



かりやしりつ
刈谷市立
小高原小学校 6年
ひらの ことば
平野 琴葉さん



とよはししりつ
豊明市立
足助小学校 6年
ほんだ ひなこ
本多 陽向子さん

防災を次なるステージへ

災害はいつとも容赦がない。能登半島地震は、離れて暮らす家族が集まる元日の午後を、一瞬で被災地に変えた。地震や津波で、帰省客を含む229人が犠牲になり、その後の避難生活で亡くなった災害関連死も100人を超えた。史上最高水準の防災レベルに達している我が国で、なぜこれだけの犠牲が出たのか。これ以上、一体何ができるのか。今年はそのような思いを胸に子ども記者たちと関西の各地取材した。

防災レベルを引き上げる契機となった災害がある。阪神・淡路大震災だ。語り部の泰さんは30年前の出来事をまるで昨日のことのように語ってくれた。数人の友達と一緒に、倒壊した自宅から米を持ち寄っておにぎりを作った。破裂した水道管から水を汲み、倒壊した家屋の木材で火を起して米を炊いた。

当時、家具固定率や食糧備蓄率は1割に満たなかった。その後、徐々に対策が進み、最近では4割程度で安定している。上昇しなくなったのは、これまでのやり方が限界に達したためだ。これまで通用しなかった部分に届く防災を模索しなければならぬ。

大阪市に本社があるエレコムは、



かんさいだいがくしゃいあんぜんがくぶきょうじゅ
関西大学 社会安全学部 教授
おくむら よしひろ
奥村 与志弘氏

1980年生まれ。2008年京都大学大学院修了、博士(情報学)取得。人と防災未来センター(神戸市)を経て、12年に京都大学大学院助教、17年4月より関西大学社会安全学部准教授、22年4月より現職。東日本大震災では政府現地災害対策本部に入ったほか、中央防災会議「防災対策実行委員会」「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」委員などを務める。

PC周辺機器メーカーとして能登の方々を支援するため、モバイルバッテリーを無償で配布した。たくさん製造している商品であれば、このような支援ができるという。「いざというときこそ自分たちに何ができるか」という発想は、東日本大震災時に手書きの壁新聞を作った石巻日日新聞の活動に通じる。南あわじ市では、災害時に炊き出し用の食材として地元特産のそうめんを利用するという。たまねぎの収穫がごも災害時のベッドとして活用するそうだ。身近なものを活かすという視点が、新しい防災を誕生させている。

南あわじ市福良地区を津波防災まちづくり日本一の町にしたいという原さんと、津波伝承女川復興男というイベントを千年続けたいという遠藤さんの話から、私自身も「誰も死んでほしくない」という思いを新たにしたい。次なるステージの防災に向けて、まだできることがたくさんありそう。

小学2・3・4・5年生の皆さんへ 全国の小学生が受験する一斉テストにチャレンジしよう!!

日能研 全国テスト

参加
無料

10月20日 小3 小4 小5
国語・算数 各40分
午前の部 10:00~12:10
午後の部 13:00~15:10
※午前・午後いずれかをお選びください。

10月27日 小2
国語・算数 各30分
午前の部 10:00~11:50
午後の部 13:00~14:50
※午前・午後いずれかをお選びください。

会場 日能研各教室
同時開催 保護者会
(3・4・5年テーマ)『子どもたちをやる気にさせる日能研の育成システム』
(2年テーマ)『日能研の低学年の学び~この時期だからこそ必要な関わりとは~』

お近くの特別会場でも
テストが受験できます
11月10日 ◆多治見会場
(多治見市 産業文化センター)
小2 小3 小4 小5

お問い合わせは
日能研ホームページへ
または各教室まで
お電話ください。



すべての
お申し込みは
コチラから→



小学1~3年生の女子・保護者対象
女子児童限定の学校説明会
10月14日 祝・月
私立中学へ
行ってみよう会
◆時間…10:00~12:30 ◆会場…金城学院中学校
◆参加校…愛知淑徳中・金城学院中・相山女子学園中・
名古屋女子大学中・南山中女子部
9/6金 13:00~ 受付開始

滝中・東海中・南山中女子部を目指す小学6年生の皆さんへ
11月4日 休 滝中学校トライアル
◆会場…滝中学校
11月17日 休 東海中学校トライアル
◆会場…愛知工業大学名電中学校
南山中学校女子部トライアル
◆会場…名古屋女子大学中学校
10/2水 13:00~ 受付開始
◆料金…4科 ¥6,600(税込)
◆時刻…[集合]9:00 [試験開始]9:15 [解散予定]滝13:10/東海13:40/南山女子13:20
●滝中・東海中・南山中女子部の各中学入試問題を完全予想 ●合格可能性評価と学習アドバイス

2024年10月中旬
リニューアル
藤が丘校
詳しくはホームページで

小学生のための
中学受験塾
日能研

教室はすべて、安心・便利な駅のそば

名駅校 金山校 千種校 本山校 東山校 一社校 藤が丘校 浄心校 御器所校
新瑞校 植田校 豊田校 岡崎校 刈谷校 勝川校 江南校 一宮校 岐阜校

各教室へのアクセス
電話番号・受付時間は、
日能研ホームページで
ご確認ください。→

